

ACANTHUS NEWS



平成16年 2004.3
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第88号

TOP NEWS

丹羽一将さん（大学院自然科学研究科） 中部キャンパスベンチャーグランプリで大賞



大学院自然科学研究科 機械科学専攻2年の丹羽一将さんが、第1回中部キャンパスベンチャーグランプリに応募し、20の大学・高専の94件の応募の中から、見事に大賞を獲得した。丹羽さんの研究「薄板の一体成形によるノート型PC用キースイッチの開発」は、現在のコンピュータキーボードスイッチの機構を一新する独創性と、企業化への可能性がきわめて高いと評価されたもので、本学発のベンチャーとして期待されている。

また、この基本アイデアは指導した尾田十八教授と共同で、金沢大学TLO (KUTLO) から特許申請されている。



賞状を手にする丹羽さん(上)と表彰式の模様(右)
=2月13日、名古屋市内のホテル

入学者 選抜試験

平成16年度金沢大学入学試験が、2月25日(前期日程)及び3月12日(後期日程)の日程で行われ、それぞれ3,055人、1,063人の受験生が挑んだ。



試験開始を待つ受験生
=2月25日、文・法・経済学部A101講義室

巻頭言

大学図書館の使命



附属図書館長
和田 敬四郎

「図書館は大学の顔である」とよくいわれる。外国の大学を訪問すると真っ先に図書館に案内され、大学の沿革、構成、特徴などを説明されることが多い。大学図書館の役割は、基本的には教育・研究に必要な図書資料を収集し、保管し、それらを利用に供することにある。また学生の学習や教官の研究に対する利便性を考え、どこに、どのような資料があるかをアドバイスするサービスも重要な役割の一つである。最近では単に文字情報だけでなく、図書資料はビデオ、CD、音声・映像に至るまで多岐にわたっている。また、近年の情報技術の急速な進展により、電子化が進み、各自のデスク上で学術雑誌を読んだり、多くの情報を多方面から取り寄せて利用したり、実物にも劣らない精細な画像を得て、自由に加工することもできるようになっている。これらに対する多面的な支援も図書館の役割

であろう。多くの学生・教職員が利用するソフトを大学規模で買い揃え、共有できるようにすることも重要である。図書館がコーディネーターとなり、集積された資料を利用して教育の一端を担うことも多くなりつつある。平たくいえば、教職員の協力を得て、大学構成員の大部分をしめる学生諸君の学習・教育に、また教官の研究に、更には社会に対して貢献することが大学図書館の役割である。知の集積場所だといえるかも知れない。

このような大学図書館本来の役割のそれぞれには、大学の顔、またはシンボルといえる要素はあまり浮かんでこない。しかし、上に述べた数々の役割をうまく機能させるためには、大学構成員全員の密なる連携が前提となる。具体的には、図書館を利用する人々の中の生きたキャッチボールが求められるだろう。「館長お薦めの一冊」コーナーより、誰でもが参加できる、読んで感銘を受けた本の紹介の場があつていい、学生のたまり場があつてもいい、静かではあるが、かたぐるしい雰囲気ではなく、大いに議論できる場があつていい、ざっくばらんで暖かい雰囲気であつてほしい。こんな図書館が出来れば、「天下の書府」である金沢にふさわしい金沢大学の図書館が本当の大学の顔＝シンボルとなりうるのではないだろうか。

目次

丹羽一将さん（大学院自然科学研究科）		心理学基礎研究の地域貢献を考える	8
中部キャンパスベンチャーグランプリで大賞	1	業界・企業研究会	9
入学者選抜試験	1	会社が求める、大学で学ぶこと	
巻頭言 大学図書館の使命	2	ー理学部生物学科就職支援セミナーー	9
総合移転第Ⅱ期計画事業 総合研究棟ⅠとⅣが完成	3	附属中学生が留学生と文化交流	9
薬学部角間地区へ引越し	3	幼児期の子育てを支援するネットワークを	10
平成15年度 第3回金沢大学フォーラム		「手取川のサケ」をテーマに手取川談義	10
ー特別講演会ー	4	やさしい英会話	10
第3回 理学部FDシンポジウム	4	学長室から	10
教養教育機構公開講演会	4	北陸3大学連携まちなかセミナー	11
第25回 がん研究所セミナー	5	ミニ講演 医薬品の南北事情：日本を見直す	11
金沢がん生物学 国際シンポジウム2004	5	公開講座	11
中国「科学技術日報」		朝倉事務局長が就任あいさつ	11
2003年世界10大技術ニュース	5	外国人留学生、古典芸能とスキーに親しむ	12
国立大学法人 金沢大学の運営組織の概要	6	今年も留学生書道展	12
自然科学研究科の部局化	7	どうぶつの足跡観察会 ー角間の里山自然学校ー	12
自然科学研究科の部局化	7	編集後記	12
2回目となる法人化教職員説明会	8		
「医療制度改革と21世紀の医療連携」を			
テーマに講演会	8		

トピックス

総合移転第Ⅱ期計画事業 総合研究棟ⅠとⅣが完成



総合研究棟Ⅳ
外観(上),
アカデミック
ホール(右)



総合研究棟Ⅰ外観(上), テクニカルボード
(左), 薬学部実習室(右)

建設が進められていた角間キャンパス総合研究棟ⅠとⅣが2月末までに完成した。総合研究棟Ⅰには、主として薬学部を母体とする自然科学研究科の研究室や実験室など、総合研究棟Ⅳには、講義室、研究科長・学部長室、自然科学研究科事務室などが入る。

薬学部角間地区へ引越し

角間地区への移転計画を進めていた薬学部は、総合研究棟Ⅰの完成に伴い、3月1日から移転を開始した。移転初日はあいにく小雪がちらつく天候だったが、午前9時30分、前日までに梱包されていた物品を積み込んだ大型トラックが薬学部を出発した。

薬学部の移転は10日まで行われ、教職員約70名の研究機器、実験器具、研究資料及び事務資料等が、ダンボール箱約15,000個に梱包され、大型トラックにより総合研究棟に搬入された。

移転後の事務部の電話番号は次のとおり

事務長	234-6809
総務第一係	234-6825
〃	234-6826
学務係	234-6827
〃	234-6828



宝町校舎から出発し(左), 総合研究棟へ搬入(右)=3月1日



額に汗して梱包を解く教員と学生=3月10日, 総合研究棟Ⅰの研究室等



教育改革

平成15年度 第3回金沢大学フォーラム — 特別講演会 —

2月6日、今年度3回目となる金沢大学フォーラムとして「大学改革と『特色ある大学教育プログラム』」をテーマに、財団法人大学基準協会事務局長の澤田 進 氏を講師に招いて特別講演会を開催し、教職員50名余りが参加した。

澤田氏は、「学生を忘れて大学改革は成し得ない」「大学改革に立ち向かうために、大学全体が一体となって真剣な議論を繰り返してほしい」「大学改革には、教員と職員の一体化が不可欠」と力説した。



講演する澤田氏
＝総合教育棟会議室



報告する高校教師＝理学部大講義室

第3回 理学部FDシンポジウム

理学部は2月21日、6名の現職の高校教諭を講師に招いて、理学部FDシンポジウム「高等学校新学習指導要領による教育内容と最近の高校生について」を開き、100名余りの教職員が参加した。

シンポジウムでは特に、数学と理科の変更された教科内容を踏まえた教育方法工夫の取組みと生徒の反応等について高校教諭から報告を受け、生徒を受け入れる大学における教授方法改善の在り方について、活発に討論された。

教養教育機構公開講演会

教養教育機構は2月9日、教職員を対象に福井大学安藤輝次教授による「大学におけるポートフォリオ活用法」と題する講演会を開いた。ポートフォリオとは「学び手が自発的に学びの伸びや変容を多面的多角的かつ長期的に評価し、新たな学びに生かすために学習物等を集めたもの」をいい、小中高の「総合的な学習」の教育法として近年普及しつつあり、大学の授業改革の一方法として注目されている。安藤教授はポートフォリオ研究の第一人者で、講演では実践例を交えた説明があった。



講演する安藤教授
＝総合教育棟会議室

研 究



質疑を行うがん研究所教員=2月6日，医学部記念館

第25回 がん研究所セミナー

2月5日，6日の両日，第25回がん研究所セミナーが開かれた。本セミナーでは，年1回がん研究所の全教員が一堂に会して，各自の研究の進展を発表する。教員同士の共同研究など所内の交流に役立つと共に，医学系研究科及び学際科学実験センターの教員に評価委員として評価を仰ぐことも兼ねている。

金沢がん生物学 国際シンポジウム2004

2月12日，13日の両日「金沢がん生物学国際シンポジウム2004」が，がん研究所と東京大学医科学研究所との共催で，100人を超す研究者の参加のもと開催された。

近年特に注目を集めているテロメラーゼ，細胞運動調節因子，がん遺伝子，DNA修復をテーマに最新の研究成果が発表され，若手研究者を含め活発な議論が行われた。



講演するClaus Scheidereit博士=2月13日，金沢市内のホテル



安藤教授

原子間力顕微鏡の
開発を伝える
「科学技術日報」

9. 记录 DNA 连续活动的原子力显微镜诞生
金沢大学研究生院安藤敏夫教授开发出能在纳米水平上连续拍摄原子力显微镜。这种显微镜每拍摄一次最多耗时0.01秒，能连续给生物体内 DNA 和蛋白质的活动录像。
使用超细针高速连续拍摄原子力显微镜，可对迄今为止无法捕捉到的生物体内高分子活动的详细情形进行直接观测，为蛋白质功能等方面的研究提供必要证据。

中国「科学技術日報」 2003年世界10大技術ニュース

自然科学研究科安藤敏夫教授による原子間力顕微鏡の開発が，中国「科学技術日報」が選ぶ2003年世界10大技術ニュースの1つに選ばれた。この顕微鏡はナノメートルのレベルで連続して高速に画像を撮影することができ，これにより，生体内の高分子の動きを観測し，たんぱく質などの機能の研究に重要なデータを得られるという。

特集

国立大学法人 金沢大学の運営組織の概要

3月7日に開かれた臨時評議会で、「国立大学法人 金沢大学」の理事就任予定者6名の指名について学長から報告がありました。報道発表された。なお、本学は、理事全員が副学長を兼務する。以下法人化後の運営組織の概要について紹介する。

発表された理事



理事（総務・人事担当）
朝倉 信裕



理事（財務担当）
中村 信一



理事（研究・国際担当）
大村 明雄



理事（教育担当）
鹿野 勝彦

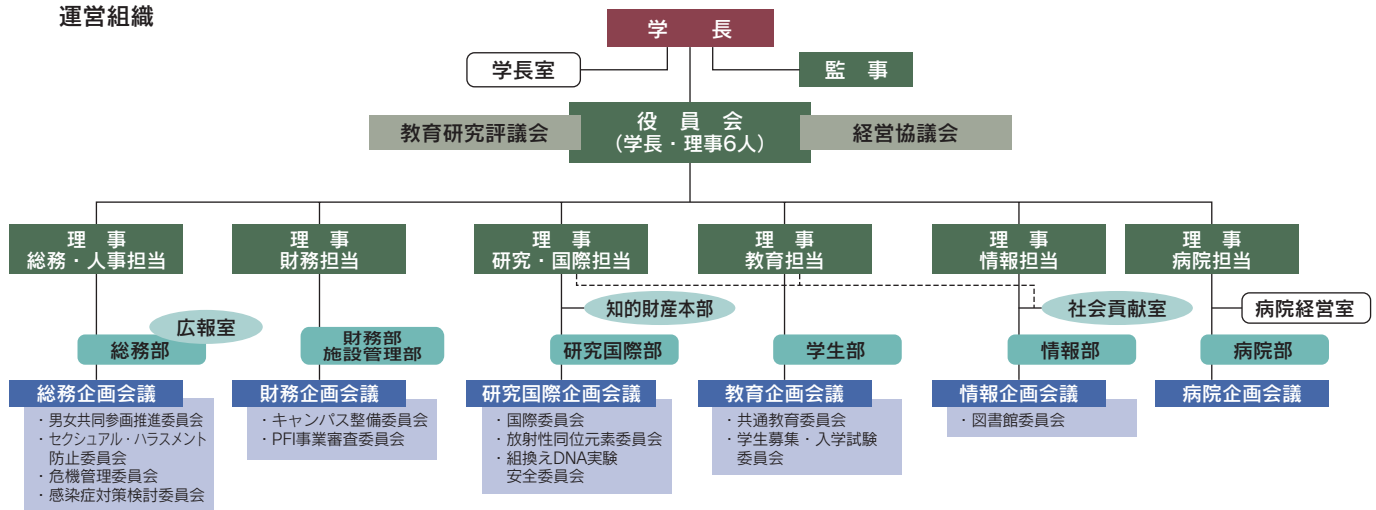


理事（情報担当）
橋本 哲哉



理事（病院担当）
渡邊 洋宇

運営組織



役員会

○中期目標についての意見及び年度計画，法人法の規定により文部科学大臣の許可又は承認を受けなければならない事項，予算・決算の作成，組織の設置・改廃などを審議します。

教育研究評議会

○中期目標についての意見や中期計画及び年度計画に関する事項，学則，教員人事，教育課程の編成，学生の入退学，教育研究状況の自己点検評価など教育研究に関する重要事項を審議します。

経営協議会

○中期目標についての意見や中期計画及び年度計画に関する事項のうち，法人の経営に関するもの，給与基準，予算の作成，決算など国立大学法人の経営に関する重要事項を審議します。

理事を支える事務局の組織（7部23課）

総務部
 総務課
 企画課
 人事課

財務部
 財務課
 資金管理課
 契約課
 資産課
 施設管理部
 施設企画課
 施設運営維持課
 施設整備課

研究国際部
 研究協力課
 研究支援課
 国際課

学生部
 教務課
 学生支援課
 学生募集課
 共通教育課

情報部
 情報企画課
 情報基盤整備課
 図書館サービス課

病院部
 総務管理課
 病院企画課
 医事課

自然科学研究科の部局化

部局化（重点化）に臨んで

自然科学研究科長 樋渡保秋



自然科学研究科はこの4月1日から部局化（重点化）される。従来の自然科学研究科は、自然系3基幹学部（理学部、薬学部、工学部）とは組織上独立したものであり、研究科担当の教員は、研究科所属の専任の他に多くは3基幹学部所属教員の研究科担当（兼担）によってまかなわれていた。それが、今回の部局化により、教員の組織は一変して、3基幹学部の全ての教員も研究科に所属することとなった。

また、本学は基本理念として「教育を重視した研究大学」を標榜している。これらのことは、本学が果たすべき社会的役割の中で研究活動（の成果）が大きな意味を持っていることを改めて世間に表明したことと他ならない。

現 行	改 組 後
博士後期課程 6専攻 入学定員 92名	博士後期課程 6専攻 入学定員 118名
博士前期課程 9専攻 入学定員 425名	博士前期課程 11専攻 入学定員 441名

改組後の組織図

新世紀の重点研究分野

大学院自然科学研究科

学 部



重点研究分野への対応
高度化・学際化・総合化

教育研究指導の
体系化・高度化

学部教育機構（仮称）による学部教育の運営
と改革全教員による学部教育の兼担

2月のニュース

2回目となる
法人化教職員説明会

法人化後の制度設計の基本方針（案）を説明する法人化教職員説明会が、2月16日から23日、各キャンパスで計5回にわたり開かれた。この説明会は、昨年9月に続いて2回目となるもので、法人化を約1ヶ月後にひかえ、主に教職員の労働条件や就業規則を中心に説明が行われた。



説明する人事労務等作業部会長の前田達男法学部教授
=2月16日、総合教育棟A1講義室



講演する武藤氏と参加者
=医学部臨床第一講義室

「医療制度改革と21世紀の
医療連携」をテーマに講演会

医学部附属病院は2月13日、地域医療連携における大学病院の役割等について職員の意識向上を図ることを目的に、国立長野病院 副院長 武藤正樹氏と同病院 地域医療連携室主任 金井昌子氏による講演会を開催し、医療従事者及び事務職員約220名が参加した。

講演会では、武藤氏が全国の特定機能病院のDPC（診断群分類別包括支払）導入後の調査データを基に医療連携の必要性について、金井氏が地域医療支援病院における連携室の役割について、国立長野病院での具体的な取り組みとその成果について講演した。

心理学基礎研究の
地域貢献を考える

2月14日、本学との共催で、日本基礎心理学会フォーラム「心理学基礎研究の地域貢献を考える」が開かれた。フォーラムは、心理学の研究成果を市民らに公開し活用してもらう目的で行われたもので、心理学関連の研究者、市民、学生ら約100名が参加した。大阪学院大学山本博樹助教授が「住まいの高齢者における操作手順の学習支援から」、富山医科薬科大学松井三枝助教授が「認知機能からみた精神疾患」、金沢大学谷内通講師が「動物心理学の"応用"を考える：家畜動物の管理を中心に」をテーマに講演した後、討議を行った。



フォーラムに参加した市民ら
=金沢大学サテライト・プラザ集会室



業界・企業研究会

就職支援室は2月17日から20日の4日間、全国から107社の企業を招いて、業界・企業研究会を開催した。研究会には、民間企業就職希望の学生が延べ1,200人以上が訪れた。就職状況が依然として厳しい中、参加した学生は今後の就職活動に役立てようと、意中の業界・企業の説明を熱心に聞いていた。

研究会の受付で資料を手にする学生たち=2月17日、総合教育棟B1講義室前

会社が求める、大学で学ぶこと —理学部生物学科就職支援セミナー—

理学部生物学科は、2月27日から3月9日にかけて全5回の就職支援セミナーを開いた。セミナーでは、各企業の研究開発担当者や採用担当者から「会社が求める、大学で学ぶこと」をテーマに、学生が大学時代に学ぶべきことについて説明した。3月2日のセミナーでは、デュポン株式会社人事部（労務採用担当）の角田竹男マネージャーが、「大学時代に幅広い文化的知識や基礎的な思考力を身につけること、自分を育てること、国際人を目指すことが必要」と説いた。



大学で学ぶことについて説明する角田氏=3月2日、理学部第2講義室



ことわざを絵で説明する生徒

附属中学生が 留学生と文化交流

2月2日教育学部附属中学校で、3年生の選択教科の時間に選択国語Aを履修している生徒たちが、「日本文化の伝道師になろう!」と題し、外国人留学生と交流した。

中学生は教室に留学生を招いて、生活に密着した文化として日本のことわざをカルタにして取り合ったり、ことわざや俳句に関するクイズを出題したりして交流を深めた。

地域貢献

幼児期の子育てを支援する ネットワークを

地域貢献推進事業の子育て支援事業の一環として、2月6日教育学部附属養護学校において幼児期教育相談ネットワーク構築のための公開シンポジウムが開催された。金沢市内の相談担当者3名と県外からの2名による話題提供を受け、保護者や学校関係者も加わり相談の現状と課題について議論された。養護学校では、子育てを支援するチームアプローチという発想のもと、事例に即したネットワークを構築するため、既存資源の発掘とその連携を検討する学習会を立ち上げることとしている。



話題提供する福井市立木田小学校小杉真一郎教諭



会場との間で多くの議論が交わされた林講師の講演

「手取川のサケ」をテーマに 手取川談義

2月1日、文学部地理学教室は松任市民交流センターで、第2回手取川談義を開いた。今回は「手取川のサケ」をテーマに、石川県水産総合センター美川事業所長の浅井久夫氏による「美川事業所のさかな」、教育学部林紀代美講師の「遼上サケの活用」の2つの講演があった。

やさしい英会話

外国語教育研究センターは、地域貢献推進事業の一環として「やさしい英会話」教室を開いた。対象は金沢市内の小学校教諭で、内容は教室英語・授業に役立つスキルなど。2月29日、3月7日、14日の90分3日間の4コースに初級11名、中級9名、計20名の参加があった。



外国人講師から指導を受ける小学校教諭=2月29日、金沢大学サテライト・プラザ講義室

学長室から



2月3日、中国 大連輕工業学院 揚 林機械工程系教授（左から3人目）、肖 正揚元学長（同5人目）、馬 希農教授（同7人目）

サテライト・プラザで



未来ロボットの可能性について意見が交されたセミナー
=金沢大学サテライト・プラザ集会室

北陸3大学連携まちなかセミナー

2月8日、福井、富山、金沢の3大学が連携して「北陸発の文化ー未来ロボットとの出会いー」をテーマに、「北陸3大学連携 まちなかセミナー」を開催した。地域住民に様々な「知」との出会いの場を提供し、学習活動を支援するとともに、北陸の大学間の連携強化をねらいとして開催したもので、市民約40名が参加。セミナーは、文学部の柴田正良教授の進行で、福井大工学部の久保田直行助教授と、富山大教育学部の横山泰行教授がそれぞれ講演し、講演後には、参加者とともに未来ロボットの可能性について議論した。

ミニ講演

医薬品の南北事情:日本を見直す

- 月 日: 2月7日
- 講 師: 木村 和子 大学院自然科学研究科教授
- 場 所: 金沢大学サテライト・プラザ講義室
- 来場者: 24名



公開講座

未来を背負って立つ子どもたち

主任講師: 大学教育開放センター浅野秀重
助教授

=2月13日,
金沢大学サテライト・プラザ講義室

朝倉事務局長が 就任あいさつ

2月1日付で着任した朝倉信裕事務局長が同3日、事務局職員を前に就任のあいさつを行った。

朝倉局長は、法人化への準備の手を緩めずに着々と進める決意を述べた。

事務局職員を前にあいさつする朝倉局長
=事務局第一会議室



外国人留学生、 古典芸能とスキーに親しむ

2月19日から20日にかけて、外国人留学生スキー講習会・交流行事が尾口村で実施された。19日は東二口歴史民俗資料館で人形浄瑠璃を鑑賞し、留学生たちは独特のセリフまわしや人形の動き、人形・舞台の造りなどに興味深く見入っていた。20日は白山一里野温泉スキー場でスキー講習会が行われた。



スキーの滑り方を学ぶ留学生
=20日、白山一里野温泉スキー場



人形を操作してみる留学生
=19日、東二口歴史民俗資料館



今年も留学生書道展

2月20日から3月3日まで、留学生書道講座の書道展が学生会館と金沢大学サテライト・プラザを会場に、半年の受講の成果を発表した。中国からの留学生でもまったく筆を持ったことのない学生もあり、日本での書道初体験を楽しんだ。今回は、書初めと色紙、各自で彫った篆刻にも挑戦した。

作品を披露する留学生=学生会館第8中集会室

どうぶつの足跡観察会 —角間の里山自然学校—

2月14日、冬の恒例行事「どうぶつの足跡観察会」に20名以上が集まった。参加者は北調整池の周辺で、膝上まで積もった雪上を歩き、けもの達の足跡を探した。雪が最初に解ける水辺は、冬の野生動物にとって重要な餌場だ。この日はウサギやタヌキなどの残した「けもの道」が見つかった。富山市ファミリーパークの山本茂行氏の解説を聞きながら、参加者たちは、足跡のつき方から動物の習性や暮らしぶりを読みとった。



けもの足跡を発見！

編 集 後 記

文部科学省の短期研修プログラムで、オーストラリアの協定校を訪問しました。強く感じたのは、海を隔てた交流関係であっても、その核になっているのは人とひとのつながりだというシンプルなことでした。

「金沢大学には恩師も、素晴らしい友人もいる。井の中の蛙にならず、jump upしてほしい。お手伝いできることがあったらしたい」一本学で博士号を取得し、現在は現地の大学教員として活躍するかつての留学生からも、エールをいただきました。

連日、法人化の「槌音」が響いていますが、あたらしい金沢大学の歩みを、期待を込めて見守っている人たちの存在に、励まされる思いがしました。

(A)

平成16年3月19日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。